

我が人生におけるロシア軍との3回の経験から 笹川和郎

- 中学一年生の時に終戦。ソ連軍の占領下で、自動小銃を持ったソ連兵の中で命掛けの生活。
- それから30年後、旧東独の建築工事のプロジェクトに参加して、ソ連占領下のドイツにおいて、昔の悪夢が再現。
- ロシア軍のウクライナ侵略で日本が世界2大独占国家から守ることを真剣に考えて、実行する時が来た！！

以上の3件を説明します。

① 子供の時のソ連兵との係り

終戦後 1945年8月、大連に進駐したソ連兵と戦車



自動小銃を持ったソ連兵相手の生活：生きるためのロシア語を喋る

我が家にソ連兵数人が時計欲しさに押し入る。友人が酔っ払い兵に拳銃で撃たれる。

終戦まで、爆弾を抱えて戦車に肉弾攻撃する訓練をしていた

個人的に話をすれば“мир хорошо” 兵隊は鉄兜無し、軍服と銃のみ

② 旧東独の超高層ビルと5☆ホテル3棟建設：ソ連兵との不再会な再会

市 Luther の教会 1977年頃

教会前にある一番乗りした戦車



現在：Hundertwasser 設計の国際学校
平和な町のシンボルの存在



東 Berlin、スターリン大通りのソ連軍のパレード 1980 年頃



鹿島建設社員の乗用車が公道でソ連装甲車に踏みつぶされた → 泣き寝入り

旧東独各地でソ連軍軍用車両に遭遇
戦車訓練場が多く見られた

③ ロシヤ軍のウクライナ侵略戦争

ドイツ再統一でソ連軍の悪夢が終わったのではなかった

世界の2大独裁国家の世界支配の野望に対する日本人の心構え

- ・自分の国は自分で守る覚悟
- ・血を流す覚悟が必要 → 平和憲法・平和ボケから目覚めよ
- ・世界中が平和を望んでも、一人の独裁者が人類を破滅させることがり得ることが分かった！

・提案：若い日本人を守るために、**シニア一特攻隊の結成** ウクライナの火炎瓶作戦を見習え！